

ウルシ苗木の育苗間隔が成長量に与える影響

1 はじめに

高濃度のショ糖水溶液を用いることでウルシ種子の選別により発芽率を向上させることが可能となった(成果速報No. 358, 361)。

そこで、岩手県林業技術センターでは、選別後の種子をまいて育成したセルトレイ苗を用いて、苗木育成の効率化を検討している。今回は、セルトレイ苗の移植時の間隔を変えて、苗木の成長を比較した。

2 材料と方法

(1) 種子の処理

種子は令和元年及び令和3年秋に二戸市内で採取し、比重1.230のショ糖水溶液で種子選別を実施した。選別後の種子は、脱ロウ処理として濃硫酸に30分間の浸漬、低温浸水処理として5℃の蒸留水へ14日間浸漬した。

(2) 種子の播種～圃場への移植

令和4年4月上旬に、用土を充填したセルトレイに低温浸水処理後の種子を1穴あたり1粒まき、約2か月後に圃場へ移植した(写真1)。移植する際の育苗間隔を5cm、10cm、15cmの3条件とし、5cmでは10本×10本(調査本数は外周を除く64本、欠株2本)、10cm及び15cmでは7本×7本(調査本数は25本)の試験区を各3区画設定した。

(3) 成長量調査

成長休止期の秋に苗高及び根元直径を測定した。草葉(1989)の結果によると、山行苗木の出荷時点で苗高40cm以上の苗木を50%以上得るために、1年目の床替え時に苗高30cm、根元直径6mmを満たしている必要がある。この値を、1年目の苗木サイズの目安として、今回の結果と比較した。

3 結果

5cm、10cm、15cmと、育苗間隔が広いほど、苗高は低い苗木が多く出現し(図1) 根元直径は太い苗木が多く出現した(図2)。

1年目の苗木サイズの目安を達成した苗木の個体数割合は5cm間隔の場合よりも、10cm、15cm間隔で4割程度と高くなった(図3)。

4 今後の予定

これらの苗木を床替えし、出荷時期である2年目での苗木サイズについて確認し、得られた得苗率から適正な育苗間隔について検討していく。



写真1 セルトレイ苗移植後の生育状況
(移植後23日目の7月1日時点、右から5cm、10cm、15cm間隔)

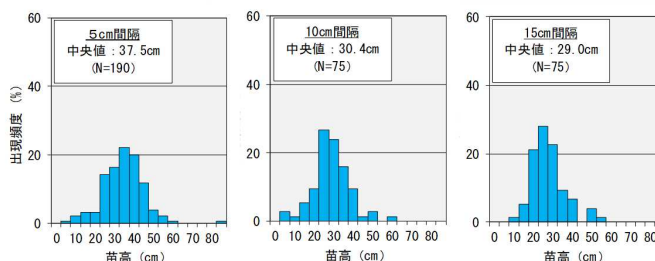


図1 育苗間隔ごとの苗高階別出現頻度 (%)

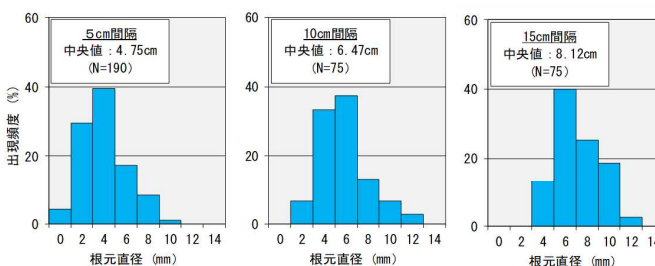


図2 育苗間隔ごとの根元直径階別出現頻度 (%)

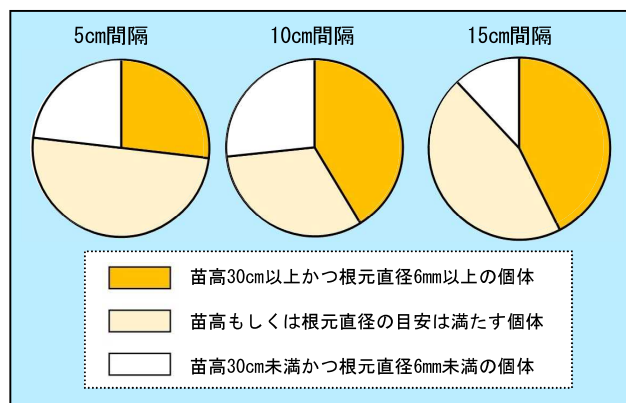


図3 1年目苗木サイズ目安の達成苗木割合

参考文献

- 1) 皆川(2021)岩手県林業技術センター成果速報No. 358
- 2) 皆川(2021)岩手県林業技術センター成果速報No. 361
- 3) 草葉(1989)岩手県林業試験場成果報告第22号

(担当 研究部 専門研究員 中軽米聖花)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>